

議員6人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



北條 利雄 議員

- ① 産業おこし「起業の促進」について
- ② 村民活動の災害補償制度の導入について
- ③ 法令遵守指針の策定について



遠藤 貴人 議員

- ① 次世代を担う「子ども」に必要な教育環境向上のための具体的な施策について



宗田 雅之 議員

- ① 福祉のコンパクト化について
- ② 特産品の取り組みについて
- ③ サービス業としての対応策



関根 政雄 議員

- ① 選挙権拡大の対応と公民教育について
- ② 村民が主人公となる村づくりについて



京條 英征 議員

- ① 幼・小・中一貫教育の取り組みについて



前田 武久 議員

- ① 県のサポート事業について
- ② 国保診療所の再会について

議会の進行



星 一 彌 議長

一般質問の答弁者



大樂 勝弘 村長



奥貫 洋 教育長



ぼくもわたしも
議会だよりのお手伝い!!

鮫川小学校の3年生の皆さんに、にがお絵を描いていただきました。



北條 利雄 議員

問 産業おこしの実行性を高める 方策を伺う

答 組織的に育成するプラットフォームに 発展させる

質問

産業情報化や交通通信体系の整備、価値観の多様化や自然志向の高まり等の潮流の変化が、新しい産業を起こす追い風でもある。「さめがわ村産業おこしプロジェクト」は幅広い角度から検討協議がなされ、着眼点や考え方、地域資源の発見、事業モデルも提案されている。「起業の促進」を図る上で、地域を元気にする産業おこしの実行性を高めるための基本的な考え方を伺う。

答弁(村長)

起業、創業を希望する情報交流の場をつくる。アイデアにこの指とまれ方式での賛同者が集まるサロン、情報交換、交流、勉強会を通じて、稼ぐ人、稼ぐ力を地域で組織的に育成するプラットフォームに発展させる。

再質問

起業が雇用にも繋げることが求められる。地域からの発案の集約方法は何か。

答弁(村長)

産業おこしプロジェクトメンバーを突破口に、

問 村民活動災害補償制度の導入を伺う

答 村総合災害補償規則に基づき対応できる

質問

ボランティアは、社会行政活動に大きく貢献する無償の幅広い活動があり、今後さらに協働活動は増加する。地域コミュニティの発展・充実を図る観点から、村民活動やボランティア活動中の事故・ケガなどに対応できる村民活動災害補償制度を導入し、負担軽減を図るべきと考える。村づくりを支える大きな力となるものであり、村民活動災害補償についての所見を伺う。

答弁(村長)

村総合災害補償規則に基づき、学校管理下、主催活動や行事等に参加する方の障害、死亡や後遺障害を生じた場合、入院や通院の補償に対応できる。

新しい方向が展開されることを期待する。

再質問

補償制度があるにも関わらず、活動に参加する方や主催者が制度を認知していない。補償に漏れる事件事故がある。制度の内容を周知する工夫が必要。

答弁(村長)

活動呼びかけ時に、周知徹底し、安心して活動できる環境整備に努める。

問 法令遵守(コンプライアンス)指針の策定を伺う

答 必要性を重く受け止め、服務や倫理等を 確認する

質問

全国で行政に関わる不祥事が繰り返されている。起因する違法行為や不注意等は住民の信頼を失い、行政運営全般に支障が生じる。社会常識や高い倫理観と行動、地域住民や社会の要求や期待に応えること。立場を認識し、法令、社会規範やマナーを率先して遵守することが求められる。本村でも「透明化と法治理

答弁(村長)

指針を策定する際には、本村の現状と制定の必要性等の整理検討になる。「仏をつくって魂を入れず」にならないよう慎重に対応する。

再質問

日常的な業務執行上の法令遵守を意識させる、意識することが重要。

答弁(村長)

策定の必要性を重く受け止め、服務や倫理等を確認するため猶予を願う。



西野区民の奉仕作業



宗田 雅之 議員

問 福祉のコンパクト化を伺う

答 今後、需要状況を見きわめながら検討を図る

質問

年々、高齢者夫婦、ひとり暮らしの高齢者が増加すると伴に、税収を支えてきた現役世代が高齢者となり、離職することにより、税収が減る一方、福祉のコスト負担が増加し、財政的にも厳しくなるのではと危惧される。今後、村として福祉負担の軽減と福祉サービスを効率的に提供するため、福祉のコンパクト化を図り、老後を安心、安全に暮らして頂くための集合住宅の建築の考えは。

答弁(村長)

福祉サービスの維持を図りながら、コスト、特に高齢者の医療、介護にかかる財政負担の軽減を図り、現役世代の負担を増加させないようにすることは、中長期的に検討しなければならぬ重要な課題である。また都市機能の集約化に伴った集合住宅を整備し、居住地のコンパクト化が図られることは、さまざまな負担の軽減に繋がると考える。現在、高齢者の優良賃貸住宅、居住棟を

再質問

整備したことにより、需要と供給のバランスが図られている。今後、高齢者住宅の不足が生じることのないよう見きわめながら、建築の整備、対策に向けて検討を図っていく。

再質問

住宅施策と福祉施策の連携を図りながら、生活支援や介護サービスの提供、賃貸住宅や村居住棟の増設、整備などの施策は大変重要であると考え。合わせて今後、団塊世代の高齢化に伴い、介護職員の不足も予想されているが、村としての対応策は。

答弁(村長)

現在、国としては在宅介護を考えており、村も指導を受けているところである。村としても、一時、職の都合で村を離れても、退職後、戻ってきた親の世話をする、そういった文化を先駆けて実践できる、優しい村を皆で築き、自宅で介護する、家庭で見送る、そういった教育を徹底していきたいと思う。

問 村特産品の取り組みは

答 生産技術の向上、指導体制の強化に取り組み

質問

村特産品の販売状況と今後、増販を図るための施策は、また一部の地域で耕作されている酒米のための農林21号の村全体としての取り組みは。

答弁(村長)

手・まめ・館の27年度の総売上は前年比6.1%の伸びであったが、大豆製

問 サービス業の対応策を問う

答 感謝の心を持って常に接するように指導徹底していく

質問

品の売上は、品質のばらつき、食生活の減塩化による味噌の消費減、品目の少なさ等により前年比3.6%の減であった。今後は安定した製品づくりを目指し、作業体制の見直しを図り、良質でおいしい製品づくりを基本とし、技術の向上、指導体制の強化に取り組み。また酒米としての農林21号

問 サービス業の対応策を問う

答 感謝の心を持って常に接するように指導徹底していく

質問

雇用施策を考える時、村施設の充実と、一層の意識改革が必要では。

答弁(村長)

村施設における、意識改革については、各施設において行われていると考える。今後は主要施設には、接客態度に努め、感謝の心を指導徹底していく。

再質問

営業時間を含め、サービス業として、客が何を求めているのか検討すべきでは。

答弁(村長)

プロの指導を受けながら、今まで以上に向上できるように指導していく。



高齢者向け優良賃貸住宅(ひだまり荘)



京條 英征 議員

問 今までの村独自の教育の取り組みと、幼・小・中一貫教育を問う

答 課題解決に向けて、鋭意努力している。先生方が情報交換を定期的に行い成果を上げている

質問

これまでの在任中、村独自の教育に取り組んでこられたか伺う。

教育の重要性が増すばかりの今、英語教育を含む幼稚園から、中学校までの一貫教育の実施についての考えは如何か。

こどもセンター、小学校、中学校という村の教育施設のすべてを、一つの学園と捉えて連携を図ることである。

幼稚園から英語教育を行い、高校に入るまでに、英語を話し、理解する力をつける。

教育の充実を図り、基礎をつくっていくことで、将来の村を担う力になり、村の元気につながり、地域の発展にも結びつくと思うが考えは如何か。

答弁(教育長)

他の自治体に先がけた村独自の教育はありません。

教育委員会では様々な課題を検討し、鋭意努力している。一つには、言語活動の充実である。

人と人、人と自然、また人と物との関係づくりで

成果を上げていると思っ

ている。その点では、村独自の教育になっているものと考えている。その検証については、子供たちの対話や表情、しっかり書かれた作品などから好ましい学習態度、人間関係が育っているかと評価している。

一貫教育については、本村では、村内の幼・小・中の先生方が課題や、問題について情報交換を定期的に行っている。



さめがわこどもセンター

また、教師同士が授業を参観することで、教育内容や方法は、一貫的に行い、指導力の向上に努めている。

英語教育については、英語の学習を通して自信を持って活動できるよう、英語の研修施設などを効果的に活用し意欲や関心を育ててまいりたい。

再質問

英語を含む一貫教育の取り組みで子育て世代の注目を集めているのが会津の警梯町である。

五十嵐源一町長と斉藤就治教育長の二人三脚で取り組んでこられたそうである。

年に十回ぐらい幼・小・中連絡協議会を開催し、全員が算数や英語、国語といった担当の部会に所属している。

ではなぜ幼稚園から英語なのか。

警梯町では、二十七年前からカナダのオリバー市と姉妹都市交流をしていて毎年、学生、町民を交互にカナダに派遣していたという。

今では中学生は希望者全員を派遣し、しかも費用は町が全額負担しているという。英語の重要性を理解しているからではないか。

答弁(教育長)

一貫教育ということとは、建物も一緒に望ましいが現実的には難しい。早くからの英語教育については、学会の中でも2つに意見

が分かれている。英語そのものではなくて、英語を使って遊べる、あるいは英語を使った方が便利だというような体験をさせているところである。



鮫川小学校

再質問

多くの難しい課題があるのは承知している。一貫教育が素晴らしい教育効果を生むだろうことは容易に想像できる。

私は、こどもセンターから小学校、中学校までではなく、較高までの一貫教育を考えている。教育の充実で、警梯町がどう変わったか、それで人口減少が抑えられたか等を見てもいいと思う。

警梯町の小学校1年生は入学したばかりの1学期の1時間目から授業が普通にできるという。

普通は5月の運動会あたりまで座って先生の話を聞くことが大変だという。

一貫教育の成果ではないか。

子育て世代の注目を集めていて、警梯町に住みたいといった問い合わせが多く、若者定住住宅の整備が追い付かないという、子供の数も生まれる数も増えている。

人口が益々減って来る本村にとつて、幼・小・高一貫教育は、建て替え、あるいは基準に適合した改修に多額の費用を要したとしても、一つの学園で学ぶ効果は、計り知れない程大きいと思う。

全国に先駆けた教育の振興は、注目も集め村の自信と誇りに繋がると思うが。

答弁(教育長)

頭の中にないわけではない。

現在の小学校と中学校が一緒にできる、そんな時期が一番よいのではないかと思っている。



鮫川中学校



問 教育環境向上のための具体的な施策を示せ

答 村民の皆さんと共通の認識に立ち、教育環境を整えていく

質問

公立校が進学塾とタイアップして、進学塾講師が有料授業を学校で行う取り組みは近隣自治体でも既に始まっている。開始時は教育格差の拡大を生むなどと物議を醸したが、実際には全国に広がりつつある。

次世代を担う子供に必要な教育環境の向上を考えると、進学塾講師による有料事業もひとつの有効な手段と考えるが、村内の小中学校を対象とした村で取り組む教育環境向上のための具体的な施策を伺う。

答弁(教育長)

村教育委員会の重点施策に「人は人によってつくられる」とあるが、教育にはよい教育環境が大事である。

健全な子ども達の発達を前提に、授業の充実と自主活動を促すために、今年度から英語、数学、漢字などの検定料に対して補助を出している。また中学校においては放課後の部活バスの時間まで部外講師としてサポートティーチャーを迎えて生徒に学習支援をおこない、学習成果を上げている。



県の支援によるサポートティーチャーの学習支援

再質問

サポートティーチャーとは学習・勉強か部活のどちらの支援をするのか。

答弁(教育長)

これは県の負担で1人の先生が定期的に中学校に数年前から来ている。

再質問

部活バスの時間まで学習をしているとのことだが、都会と僻地との教育格差が広がる一方であると考えられる。進学塾や家庭教師に乏しい本村においては、教育における課題を克服し、高校卒業までは「村のこどもは村で育てる」という信念を実現すべきと考える。

再質問

都市部との教育格差を解消し、地域の子供達の自己表現を地域総がかりで支援する新しいモデルづくりを目指し、生徒にとって最適な進路実現の支援を目標とすべきと考えるがいかがか。

答弁(教育長)

都市の一部の方は恵まれた教育環境にある。しかし実際に田舎の子供達

再質問

の学力が低いかということではない。必ずしも良い条件、塾などで学んだ子供達が成長しているかというところではないという統計がでている。

再質問

地域の機能を将来にわたって存続させるには、地域が自ら様々な分野のエキスパートを育てていく必要がある。村の子供達を早い段階から現場を体験させることによつて、自覚、学習意欲の向上を図る「※アーリーエクスプロージャー」という言葉がある。

村の「手・まめ・館」

再質問

はじめ「さざり荘、トレン、ほつとはうす、ひだまり荘」などの施設を幼少期から体験学習する学習も大切であると考え

答弁(教育長)

幼稚園、小学校は見学程度で体験はしていないが中学校の体験学習は継続していきたい。

※「アーリー・エクスプロージャー」

入学後間もない時期に医療現場を体験する早期体験臨床実習。現在は、多業種にわたって広く運用されている。



中学生による村内施設での体験学習



関根 政雄 議員

問 選挙権の拡大(満18歳)の対応と 公民教育策を示せ

答 こども模擬議会を継続発展させ、 意識改革と地域の教育力を育てる



若者の貴重な一票が投じられる投票所

質問

この夏の参議院選挙から満18歳の若者に選挙権が与えられる。これらの青年への公民教育は全国の教育現場や自治体で取り組んでいるが、責任意識をもち、政治参画のできる若者の育成について、本村独自の公民教育を継続的に計画し、実践すべきと考えるが。

答弁(教育長)

中学校、高等学校の指導とつながりを随時検討し、公民教育の狙いが達成できるように努める。テーマを決め、予算化

をし、中学生が村長選び答弁者とする議会を継続したい。

再質問

鮫川校において模擬投票や選挙教育はされたか。また賛成や反対を討論する「ディベート」を教育に取り組んでいるのか。

答弁(教育長)

鮫川校においては資料を提供し話をした。ディベートの教育については段階を踏んで徐々に能力を育てていく。

問 村民が主人公となる村づくりの推進策は

答 女性や若者をはじめ村民が村づくりに関わられるように取り組む

質問

第4次振興計画は「つながりで支え輝く村づくり」をテーマとして10年間の村づくりのスタートとなった。また「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の13のプロジェクトでも村民を主体とした計画が検討されている。

これらのプロジェクトの実現に向けて、村民とともに計画を共有し、広く公聴し意見や提言を反映させることが、「住民参加の村づくり」には不可欠である。今後の「人材教育」や「村民主体の村づくり」の所信を伺う。

答弁(村長)

住民参加の村づくりに、村民と職員が一緒に議論することが大切であり、それが人材育成に繋がる。女性や青少年の意見や要望を聞くことも大切であり、歴史、文化、自然環境、地場産業、そして人材を生かし、今あるものに磨きをかけて村

民が幸せ感を実感できる村づくりに取り組む。

答弁(村長)

地域には活発な青年や女性、各推進委員会、サポーターの会が活躍している。各議員も活動の中で村民の声を反映されたい。議会報告会などを開催した場合に職員や私も参加し、村民の意見を聞く機会はいつでも準備している。

まち・ひと・しごと創生戦略

国の地方創生事業の支援を受けるために村は13項目からなる各プロジェクトを計画し、今後検討を重ねることとしています。

- ①ふるさと回帰
- ②地域おこし商社
- ③産業おこし・特産品
- ④温泉活用
- ⑤鹿角平合宿誘致推進
- ⑥環境公社設立による農村環境維持
- ⑦小さな仕事づくり
- ⑧移住者向け住宅環境
- ⑨公民連携ふるさと留学推進
- ⑩子育て・教育支援
- ⑪社会人生涯学習
- ⑫貸農園を活用した都市交流
- ⑬児童公園を核とした賑わいのあるコンパクトビレッジ



前田 武久 議員

問 県のサポート事業の内容を示せ

答 美しい農村風景を創出するための事業である



県サポート事業を活用した環境維持事業(館山公園除草作業)

質問

福島県地域創生総合支援事業の採択より、本村の環境景観づくりに取り組むことを目的とし、自然豊かな里山、景観のさらなる充実と村の魅力を生かすための事業の検討を行うが、事業内容について何う。

答弁(村長)

この事業は要望の採択を受け、早期に事業着手をするため、予算の補正を専決している。

事業はシルバーセンターに委託する。担い手の組織の検討もしている。

再質問

本村で一番力を入れている館山公園整備、各名

勝地の景観維持等を進めているが、採択サポート事業に関する委員の選出構想を何う。

答弁(村長)

9割がシルバーセンターに委託している。

再質問

シルバーの方は作業員であり委員と異なるのではないか。

答弁(村長)

サポート事業の請負がシルバー人材センターである。

再質問

これから進めるプロジェクトの構成員と異なると思うが。

答弁(村長)

担当課長より答弁させる。

答弁(企画調整課長)

担い手組織の検討をするために区長、村民の方から約15名を選考し3回程度の会議を開く。

問 新任医師の雇用契約の内容と、医師住宅入居は

答 2年契約で診療は月曜日から金曜日となる

質問

4月21日から診療所が再開され、着任された医師との雇用契約と待遇、また送迎による勤務と聞くと、医師住宅への入居の可能性について何う。

再質問

今後無医村は回避すべきである。もう一人の若い先生が応募されたと言いたが、その後の交渉は。

答弁(村長)

61歳の前途有望な先生であった。2年後に私が必要であればということであった。

再質問

医師には長期間診療に携わっていただきたいが、契約更新時には後任の準備はすべきではないのか。

答弁(村長)

コミュニケーションを図り契約の更新または後任策を講じたい。

医師住宅への居住については先生の事情で自宅からの通勤との事で、高齢に配慮し、こちらで送迎することとした。医師住宅は交付金、補助金で整備し、目的外使用はできないために、空家となるが、管理に努めたい。

放射線量の監視もいよいよ終盤に

低線量は変わらず、仮設焼却炉の撤去工事進む

環境省が青生野地内に設置した、農林業系副産物を減容化する「仮設焼却炉」は平成26年3月に本格稼働し、昨年7月まで、16ヶ月間で稲わら、牛ふん堆肥など415トンを焼却しました。

また仮設焼却炉周辺の空間線量と土壌・水質検査を監視する「仮設焼却炉監視委員会（星一彌会長）は21回の会議と109回の線量検査を実施し、監視をしました。目的を果たした焼却炉は今年9月で解体撤去が終了しますが、委員会は安全が最終確認できるまで監視活動を継続することとしています。



各行政区長、一般公募者、議員、清水福島大学教授で構成されている仮設焼却炉監視委員会



完全密封されたなかで解体撤去される仮設焼却炉



5班体制で週1回、約2年以上にわたり続けられている監視活動

【焼却施設付近の空間線量率のモニタリングの結果(単位 $\mu\text{SV}/\text{h}$)】

		貯留ヤード北	貯留ヤード北西	煙突南西	焼却炉東
運転前 H.25.12.1~12.12	最大値	0.11	0.12	0.12	0.10
	最小値	0.08	0.10	0.10	0.08
解体期間中 H.27.12.14~5.20	最大値	0.10	0.11	0.10	0.10
	最小値	0.05	0.06	0.06	0.05

追跡! 第4弾

過去の一般質問が行政に反映されているかを経過を検証します。

どうなったっぺ?

あの一般質問

質問・提言	答 弁	経過及び結果
<p>村内の携帯電話の不通話地域の解消をすべき。 設置が困難であれば宅外、室内アンテナを補助すべき。</p> <p>平成23年4月議会 平成28年3月議会</p>	<p>不通話地域の実態を把握し、補助事業にて整備を進める。 村独自の助成や対策は困難である。</p>	<p>平成26年度は藪地区、平成27年度は折戸地区、平成28年度は官代地区に設置される予定。以後も継続事業として解消に取り組む。</p>  <p>年々解消されつつある携帯電話関連設置</p>

質問・提言	答 弁	経過及び結果
<p>「村民憲章」や「村民の歌」が村民に浸透していない。村の行事にも歌うべき。また歌詞が入った村民の歌を定時に村内に流すべき。</p> <p>平成23年3月議会</p>	<p>村の伝統行事などの要項に歌詞を掲載して村民の歌が親しめるようにする。防災無線での定時の歌の放送は検討する。</p>	<p>納税組長大会では開式後に歌われている。 防災無線での定時による歌詞付の歌は放送されていない。</p>  <p>納税組長大会において唱われている「村民の歌」</p>

質問・提言	答 弁	経過及び結果
<p>さぎり荘の利用について村内の若い世代から「一度も行ったことがない」と聞く。利用促進のための無料券配布をはいかがでしょうか。</p> <p>平成28年3月議会</p>	<p>優待券の発行や宿泊施設の整備など財政負担を考慮し検討する。 優待券の発行については村民の声を参考に面白みのある発行の方法を考える。</p>	<p>7月1日より村内在住の18歳未満の子供を持つ親子に対して1名2枚の「ふれあい入浴券」が発行される。子育て支援と若者の利用促進が大きな狙いだ。(有効期間は平成28年3月末まで)</p> <p>活用促進が図られつつある「さぎり荘」</p>

※定例議会での「一般質問」は議員の「政策提言」や、「村民の皆様の声」を村政に反映できる唯一の場となります。村の事業計画には慎重な検討が必要であり、費用対効果や予算措置の諸事情により時間を要する場合があります。

私の夢シリーズ⑤

藤田 百美さん (鮫川中1年)

勉強とあいさつを頑張りたい



私の将来の夢は決まっていません。でも夢を見つけるために頑張っていることが二つあります。

一つ目は「勉強」です。夢を決める時に勉強が関係するかわからないので、勉強が関係しても関係しなくても両方選べるようにしたいからです。今は、2学期のまとめにむけて勉強を頑張っています。

二つ目は「あいさつ」です。あいさつはとても大事で人との関わりが深くなります。またあいさつをすることで、自分も相手もうれしくなるからです。今は自分から進んであいさつすることを目標にしています。

私の将来の夢は決まっていないので、勉強とあいさつの二つをこれからも頑張っていきたいです。そして自分に合った「夢」を早く見つけたいです。

傍聴者の皆さんの声

議会傍聴者からのアンケートへの集計結果 (記述文のみ)

■ 議員の発言内容はよくわかりましたか

- ・ 施策を実施するためには村も頑張るが、議員や村民の方々にも協力を要請していたのが良かった。
- ・ 良い発言の議員もいましたが、非常にくどい議員のわからない発言も感じられた。長く、くどい発言をしても実にならないと思う。時間の無駄である。
- ・ 要望が多くあったが、議員自身の主張する質問が多くありよかった。

■ 答弁者(村長、教育庁、職員)の発言はよくわかりましたか

- ・ 村長の答弁が少し長い。他町村の答弁は各職員が町長の3分の1ぐらい答弁をしている。

■ 議会傍聴されて気付いた点がありますか

- ・ 議会の内容は「議会だより」で良く分かる様に編集されているので、改めて傍聴しなくてもいいと思った。
- ・ 教育に関する件は、議会答弁以外の議論の場が必要と思う。
- ・ 教育行政は「問題がおこらない事」を目指すのか。大変消極的で残念でした。

■ 議会全般についてご意見がありますか

- ・ しっかり議論し、村の発展のために頑張ってください。

ふるさと鮫川への想い シリーズ②1



青戸 寿之さん
(大字富田宇彦次郎出身)
岐阜県岐阜市在住

◆プロフィール

【生年月日】 昭和45年1月18日
昭和63年 県立安積高等学校卒
平成9年 福島県立医科大学卒
同年4月 京都大学整形外科入局
同年11月 福井日赤病院
平成11年4月 守山市民病院(滋賀県)
平成15年4月 聖隷三方原病院(浜松)
平成19年4月 岐阜市民病院
現在 岐阜市民病院 整形外科副部長
リハビリテーション科部長

【家族】 妻、長男、長女、トイプードル、
クワガタ多数
【趣味】 ゴルフ、クワガタ飼育

このような機会を与えて
いただき感謝します。

【活躍している人】に原
稿を…と依頼されたのです
が、そんなに活躍していな

いなあと思いながら書かせ
ていただいています。

私は中学3年から親元
を離れていたの、鮫川で
生活していたのは14歳ま

です。

小学生のころは野山を駆け回っていました。特に、夏には兄とカブトムシやクワガタを採って飼育していました。(今でも夏に帰省するとクワガタ採りをしています)

中学では陸上部に入りました。練習はつらく大変でしたが、中体連などで多少の成績をあげることができました。しかし、駅伝で連覇を逃したことはいまでも悔しい思い出として心に残っています。

さて、話は飛びます。大学を卒業後の進路はかなり悩みましたが、京都大学整形外科に入局しました。静岡から九州の小倉まで、その地域の中心となる病院が関連病院だったのです。ありがたいことに両親もさほど反対されなかったと記憶しています。もしかしたらすぐ帰ってくる、と思っていたのかもしれないけれど。

大学病院で半年間研修

した後は、福井日赤病院
↓滋賀県の守山市民病院
↓浜松の聖隷三方原病院
そして現在の岐阜市民病院
と当初の希望通りに勤務できました。

私は現在、肩関節、足の外科、関節リウマチを専門にしています。少しでも多くの方が笑えるようになっていただければと思います。(本心)

気が付くともう50が近づいています。もう折り返し地点は過ぎていくでしょう。

これから自分にできることを考え、悔いのない生活をしていこうと思っています。

これからも両親ともどもよろしく願います。帰るたびに自然豊かな鮫川に癒されています。



議会傍聴を お願いします

年々議会に関心を寄せる村民の皆様が増え続けています。議会傍聴者も増えており、傍聴者から貴重なアンケートを寄せていただき議会運営の参考にさせていただいています。次回議会は9月中旬の予定です。女性や若い村民の皆様はの傍聴をお待ちしています。

ふるさとへの想いの ご寄稿者をご紹介下さい

既に21回を迎えたシリーズ「ふるさとへの想い」。多くの村民の皆様が楽しみにしている特集です。是非村外で活躍されている方を紹介下さい。
(議会事務局 49-3198まで)

編集後記

静寂な昼下がりに、椅子に座り目を閉じる。木々の香り、土の臭い、清流の音、遠くから聞こえるカッコウの鳴き声、都会では感じることはない、田舎の宝、大自然からの贈り物である。これを守り育てて行くのが、真の地方創生であるのでは。日々の暮らしに、安らぎと癒しを与えてくれる、自然の営みに感謝である。
(編集委員)